

聖書日課 『からし種』 2023.7.23-7.30

<p>7月23日 (日) I 歴代 26章</p>	<p>「シェロミトとその兄弟たちが、ダビデ王と家系の長たち、千人隊と百人隊の長、將軍たちが聖別した聖なる物の保管の全責任を負った」(26節)。これらの宝物は神殿の修理のため聖別された。彼らはダビデ王の宝の管理を任された。彼らに求められたのは忠実である事である。私達も神の恵みの良き管理人としてキリストに忠実である事が求められている。</p>
<p>24日 (月) I 歴代 27章</p>	<p>「ダビデは二十歳以下の者を人口に加えなかったが、それは主がイスラエルを空の星のように数多くすると約束されたからである」(23節)。この約束は神がアブラハムにされたのだが、ダビデもそれを大切なこととして覚えていた。神が約束されたことは必ずなると信じて生きる事は大変なことだ。私達も神の救いの約束を信じて生きる者になりたい。</p>
<p>25日 (火) I 歴代 28章</p>	<p>「今、よく考えよ、主は聖所とすべき家を建てるためにあなたを選ばれた。勇気を持って行え」(10節)。これはダビデがソロモンに語った言葉。『この父の神を認め、全き心と喜びの魂を持ってその神に仕えよ』(9節)とも語っている。ダビデは神殿を建てる志を持っていたが、神はソロモンが神殿を建てることを示された。ダビデの信仰に倣いたい。</p>
<p>26日 (水) I 歴代 29章</p>	<p>「すべてはあなたからいただいたもの、わたしたちは御手から受け取って、差し出したにすぎません」(14節)。これはダビデと民が神の宮に必要なものを心から喜んでささげたことを喜び、主を褒め称えたダビデの祈り。大変高価なものを喜んでささげて、「これらはもともと主のものなのです。」というダビデの姿勢に、私たちの献金も倣うべきだろう。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.7.23-7.30

<p>27日 (木)</p> <p>Ⅱ 歴代 1章</p>	<p>「今このわたしに知恵と識見を授け、この民をよく導くことができるようにしてください」(10節)。神が夜ソロモンに現れて、「何事でも願うがよい。」とおおせになった時ソロモンが神に願った言葉。その願いに神は感心され、願ってない富と財宝と名誉も与えると告げた。ソロモンにとってはこれがのちにあだとなる。私たちも気をつけたい。</p>
<p>28日 (金)</p> <p>Ⅱ 歴代 2章</p>	<p>「神殿はただ主の御前に香をたくためのものでしかありません」(5節)。一見すると神殿とは香をたくだけのもの、だすると味けない感じだ。力を尽くして取りかかる神殿建築だが、天も、天の天もこの神を納めることはできない。ましてや人であるソロモンは何者なのかと自問しながらも使命を全うしようと努めたソロモンを覚えたい。</p>
<p>29日 (土)</p> <p>Ⅱ 歴代 3章</p>	<p>「ソロモンはエルサレムのモリヤ山で、主の神殿の建築を始めた」(1節)。この場所はダビデがあらかじめ準備しておいた場所だという。モリヤ山といえば、アブラハムがひとり子イサクを燔祭としてささげた所。神はアブラハムの信仰を認めてイサクの代わりに一頭の雄羊を供えられた。このようにモリヤ山とは神の栄光の場所であることを覚えたい。</p>
<p>30日 (日)</p> <p>Ⅱ 歴代 4章</p>	<p>「職人の頭フラムはソロモン王のため、すなわち主の神殿のために、求めに応じてこのすべての祭具を作った」(16節)。ティルス王は建築に必要な材料と同時に優秀な職人フラムを派遣してダビデの神殿建築に協力した。どんなに素晴らしい材料が揃っても職人の技がなければ祭具にならない。私たちも主の御手において初めて「主の器」とされることを覚えたい。</p>